

地盤工学会 関東支部 造成宅地の耐震対策に関する研究委員会 (H24 年度活動)
第 10 回議事録案 (準備委員会含む第 14 回)

日時：平成 25 年 1 月 9 日 (水) 15:00~18:30

場所：地盤工学会館 大会議室

出席者：安田委員長、飯沢委員、内山委員、小川(和)委員、小西委員、小林委員、澤田委員、諏訪委員、手塚委員、橋本(隆)委員、平出委員、福田委員、人見委員、松下委員、松本委員、太田秀樹オブザーバ、大林

資料：10-1 議事次第、議事録案ほか

10-2 相談調書 (12 月 15 日分)

10-3 第 9 章の査読意見

10-4 「まえがき」原稿案

10-5 「第 1 章」原稿案

10-6 「第 6 章」原稿案

10-7 「第 9 章」原稿案

10-8 「第 10 章」原稿案

議事：

1. 委員長挨拶

・宅地の液状化推進事業については、事業が具体化するところなども出始めているようである。また、検討中の自治体においても各地の事情に合わせた議論が進んでいるようである。

2. 浦安市建築指導課依頼の相談会について

・12 月 15 日 (土) 堀江公民館で実施した住民相談会の内容を調書にて説明。相談内容、回答について確認。

・1 月 16 日 (水) は安田委員長と新坂委員。2 月 23 日 (土) は澤田委員と大林、3 月 14 日 (木) は手塚委員と AM は大林、PM は安田委員長を担当とする。

3. 戸建て住宅の液状化対応に関する手引書の内容について

・各章における議論のひつような部分について再確認を行った。

①H1~H2 の図をどのようにするか？

→石原先生の論文の図と UR の設計指針の図などがあるが統一する。論文による引用が可能な石原先生の図とする。また、複数回出てくるので全体をとおして図の調整を行う。

②スウェーデン式サウンディングからの N 値の換算 (稲田式) について

→すでに、スウェーデン式サウンディングから N 値に換算することが実用では一般的になりつつあるので、稲田式については記述し、その適用や留意事項などについて明記する。

③5 章と 6 章の重複について

→5.4、5.5 は 6 章への記述とする。

④流動について FLIP などによって蓄積されたデータがあるが

→図が紹介されておるので、澤田委員によって調べ、護岸流動のところに入れる。

⑤7.2.11 かさ上げ盛土について

→潮来で実績のあった事例の情報を橋本隆委員から提供いただく

⑥9 章の「使用材料の選定」について

→産廃扱いになることなどは、10 章に入れる。

⑦8 章 (8.2)、9 章 (9.2) の書式について

→新坂委員に御提案いただいた表形式にする。

⑧9.1 について

→p6~7 は「ガイダンス」を参照することとして本書からは割愛する。

⑨7章、8章、9章にある工法名については、商品名は避け、一般名称を用いることとする。

⑩10章について内容と執筆担当を以下のようにする

→10章タイトルを「今後の課題と将来に向けて」とする

「被害軽減対策が隣地に及ぼす影響の考慮」：松下委員

「土地家屋の売買に関する考慮」：諏訪委員

「工法選定に関する留意点」(9.2に関連して敷地の面積や周辺環境の考慮等)：諏訪委員

「宅地カルテなどの提案」(当該宅地の地盤情報を明らかにするような制度の提案)：内山委員

他にも思いつくものがあれば提案、記述願いたい。

⑪「まえがき」について

→浦安市への対応など、これまでの経緯も記述する。

他の震災委員会や浅層盤状委員会などの関連も記述する。

技術的裏づけのある液状化対処方法を紹介していることや、そのような工法を用いなければならないことを明記する。

⑫「あとがき」について

→今現在の新しい知見が盛り込まれた点などについて明記する。

⑬出版について

→印刷のタイミングによって、経理上の「在庫」勘定が増えないかなどを事務局に確認する。

4.今後のスケジュール

1月18日 今回の委員会の結果を踏まえた最終原稿を幹事（大林）まで送付

1月31日 委員長、幹事、小川委員によって全体を通した修正や統一について確認。執筆者とやり取りして修正する。

2月初旬 委員各位に全体のPDF版を送付。最終確認。

2月中旬 印刷原稿入稿

・次回委員会（最終委員会）

3月7日（木） 16:30～ 地盤工学会館 終了後 打ち上げ（別途御案内します）

以上